

## 地球温暖化対策計画書

## 1 指定地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	昭和飛行機工業株式会社

## (2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		フォレスト・イン昭和館								
事業所の所在地		東京都昭島市拝島町4017番地3								
業種等	事業の業種	分類番号	M75	M_宿泊業_飲食サービス業	宿泊業 <input type="checkbox"/>					
		産業分類名	宿泊業 <input type="checkbox"/>							
	事業所の種類	主たる用途	宿泊							
		用途別内訳	建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)		前年度末	24,526.51	m <sup>2</sup>	基準年度	24,526.51	m <sup>2</sup>
			事務所	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			情報通信	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			放送局	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			商業	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			宿泊	前年度末	24,526.51	m <sup>2</sup>	基準年度	24,526.51	m <sup>2</sup>	
			教育	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			医療	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			文化	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
			物流	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>	
駐車場	前年度末			m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>			
工場その他上記以外	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>				
事業の概要		都市型リゾートホテル 運営1998年竣工 地上10階、地下1階 収容人数1,334人 3階～8階は客室、1階、2階、9階、10階は宴会場・レストラン 地下1階はバックスペース								
敷地面積		29,730.00 m <sup>2</sup>								



(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	アーバンリゾーツ昭和の森株式会社 管理部
	電 話 番 号 等	042-542-7023
公表の 担当部署	名 称	アーバンリゾーツ昭和の森株式会社 管理部
	電 話 番 号 等	042-542-7023

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： <a href="http://www.showa-aircraft.co.jp/">http://www.showa-aircraft.co.jp/</a>
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	冊 子	冊子名：
入手方法：		
そ の 他	アドレス：	

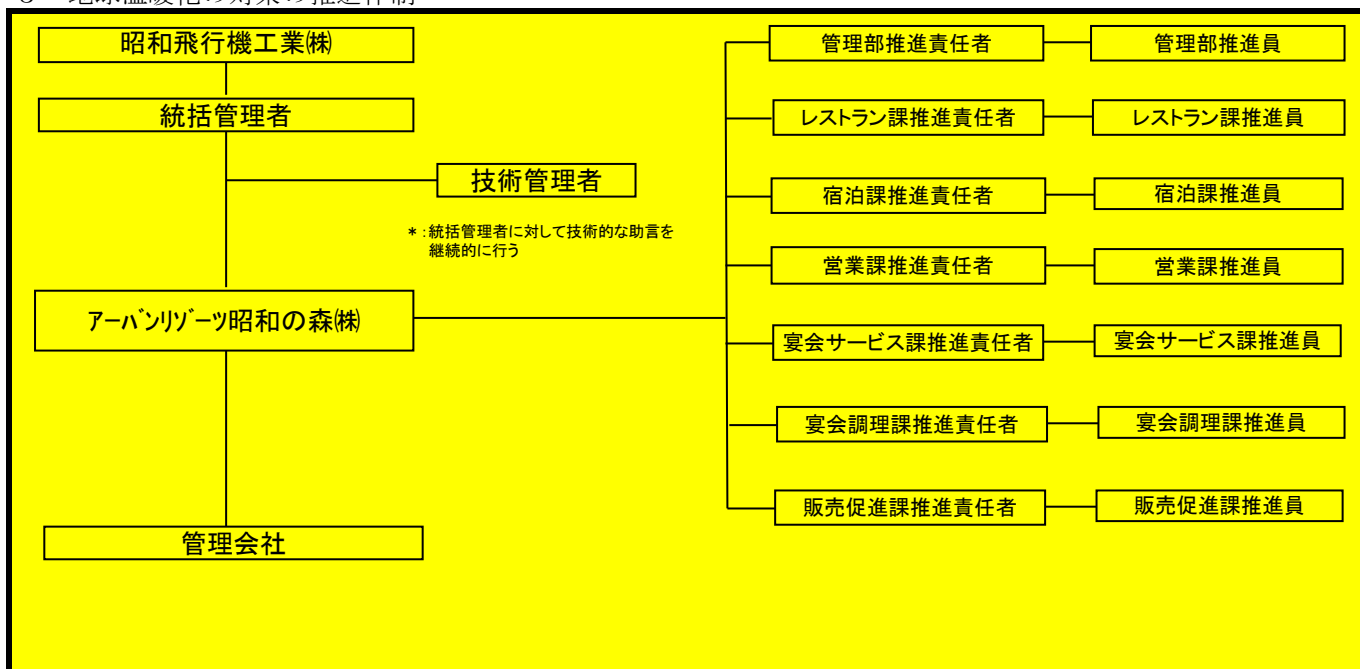
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1998	年	8	月	31	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

1. 環境管理システムを実践することにより、地球温暖化防止を含む、環境汚染の予防と環境影響の継続的改善を行う。
2. 国・自治体による環境関連の法律、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守する。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	前年度までの実績を分析し、エネルギーの使用の最適化・効率化を追求するとともに、統括管理者を中心に社員及び協力会社が一丸となって、運用対策を実施することにより、総量削減義務以上の削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び下水道への排出に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。したがって、節水を行うことで、その他ガスを削減する。		
削減義務の概要	基準排出量	5,829 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	24,195 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	16.98%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	高効率設備への更新などにより、更なる削減を図る。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	現在の削減計画期間と同様に継続的に節水を行うことで、その他ガスの排出量を削減する。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO <sub>2</sub> )		4,572				
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )					
	メタン (CH <sub>4</sub> )					
	一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)					
	ハイドロフルオロカーボン (HFC)					
	パーフルオロカーボン (PFC)					
	六ふっ化いおう (SF <sub>6</sub> )					
	三ふっ化窒素 (NF <sub>3</sub> )					
上水・下水		38				
合計		4,610				

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	186.4				

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2002年度、2003年度、2004年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2015 年度から 2019 年度まで
---------------------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	5,829	5,829	5,829	5,829	5,829	29,145
	削減義務率 (B)	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						24,195
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						4,950
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	4,572					4,572
	排出削減量 (F = A - E)	1,257					1,257

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	婚礼などの宴会場稼働率増減でCO2排出量に対する影響が大きい		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	120100	12_燃焼設備の管理	蒸気ボイラーのインバーター化	2009年度実施済み	
2	120200	12_冷凍機の効率管理	冷凍機出口温度設定変更	2005年度より実施	
3	120400	12_補機の運転管理	冷却水ポンプのインバーター化	2016年度以降	
4	130100	13_空気調和の管理	空調機、外調機設定温度の緩和	2005年度より実施	
5	130100	13_空気調和の管理	ゼロエネルギーバンドの導入	2006年度より実施	
6	130100	13_空気調和の管理	CO2濃度センサー導入による外気量制御	2006年度実施済み	
7	130300	13_換気設備の運転管理	給排気ファンのインバーター化	2017年度以降	
8	130300	13_換気設備の運転管理	F L R型からHF型へ更新	一部実施	
9	150200	15_照明設備の運用管理	白熱電球からLED電球へ更新	2011年度より実施	
10	160200	16_建物の省エネルギー	建物南側ガラス面に断熱クリア塗装を塗布	2017年度以降	
11					
12					
13					
14					
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】				
51					
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当社では、日頃から環境配慮の積極的取組みを一丸となって進めている。

1. 運用管理での省エネ活動

運用管理での省エネ活動は旧計画期間でも実施してきたが、営業方針でもある「快適で安全な施設の提供」に配慮しホテルゲストに影響を及ぼさない環境配慮活動を統括管理者を中心に継続して実施し、温室効果ガス削減に結びつけている。

2. 社員・協力会社への環境意識向上のための啓発活動

節電・節水ポスターや社員及び協力会社に省エネに対する勉強会を定期的を開催し、会社全体で環境意識向上が図られた。